

サニーヒルズみずなみ

令和元年度 検証評価調書（共通分野）

評価基準：岐阜県第三者サービス評価基準

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

I-3 事業計画の策定

I-3- (2) 事業計画が適切に策定されている。	
7	I-3- (2) - 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。
着眼点	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、利用者や家族等に周知（配布、掲示、説明等）されている。
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を利用者会や家族会等で説明している。
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、利用者等がより理解しやすいような工夫を行っている。
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、利用者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。
委員からの意見： ・年度始めに事業計画を策定し利用者・家族等に周知している。毎月、利用者と懇談会を開催し課題解決を行っている。 ・毎月、改善推進委員会にて課題の検討を行っている。（掲示板2カ所を設置し、毎日の職員の出勤状況や行事予定を掲示している。） ・各会議にて周知徹底を図る取り組みを実施している。 ・毎月、利用者全体会にて周知徹底を図っている。	
施設の対応等： ・事業計画の利用者への周知については自治会、家族の面会日や施設経営委員会等、機会を捉えて説明を行い、また、ホームページでも事業計画を掲載して広く公開している。 ・利用者の障害特性や一人ひとりの個性に合わせた、分かりやすい説明を今後も行って行く。	

サニーヒルズみずなみ

令和元年度 検証評価調書（専門分野）

評価基準：岐阜県第三者サービス評価基準

A-2 生活支援

A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援

A^⑭
A-2-(7) 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。
-①

着眼点

- 利用者の希望と意向を把握し、地域生活に必要な社会資源に関する情報や学習・体験の機会を提供している。
- 利用者の社会生活力と地域生活への移行や地域生活の意欲を高める支援や工夫を行っている。
- 地域生活への移行や地域生活について、利用者の意思や希望が尊重されている。
- 地域生活への移行や地域生活に関する課題等を把握し、具体的な生活環境への配慮や支援を行っている。
- 地域生活への移行や地域生活のための支援について、地域の関係機関等と連携・協力している。

委員からの意見：

- ・外部の施設紹介・相談員の方との情報交換ができ、体験しやすい体制作りを行っている。
- ・地域内行事に参加している。
- ・地域生活に必要な金銭感覚を身に付けてもらう訓練を行っている。（タブレットの使用支援）
- ・職員間の共有で、毎月フロア会議で情報共有し、フロアのスタッフ同士の声かけを行っている。
- ・評価に違いがあるのは、リーダーたちは外部とも相談して行っているが、日常的には伝わらないので現場とのずれがあると思われる。

施設の対応等：

- ・地域移行の希望がある場合は、情報提供や支援協力や関係機関との連携を図り、支援できる体制を準備している。
- ・社会生活力や地域生活の意欲を高められるよう、情報提供を行いグループホーム等への体験機会を作りたい。
- ・外部との連携を行った際には、現場にも情報を提供しすれ違いのないように支援の充実を図っていく。

A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援

A⑮
 A-2-(8) 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。
 -①

着眼点	<input type="checkbox"/> 家族等との連携・交流にあたっては、利用者の意向を尊重して対応を行っている。
	<input type="checkbox"/> 利用者の生活状況等について、定期的に家族等への報告を行っている。
	<input type="checkbox"/> 利用者の生活や支援について、家族等と意見交換する機会を設けている。
	<input type="checkbox"/> 利用者の生活や支援に関する家族等からの相談に応じ、必要に応じて助言等の家族支援を行っている。
	<input type="checkbox"/> 利用者の体調不良や急変時の家族等への報告・連絡ルールが明確にされ適切に行われている。
	<input type="checkbox"/> 利用者の生活と支援に関する家族等との連携や家族支援についての工夫を行っている。

委員からの意見：
 ・家族が高齢になり連絡が取れにくくなったり、遠い身内のみになってしまっている現実があるが、連絡は電話や書類で行っている。
 ・書類など家族の了承を得て代行、代筆を行っている。
 ・家族の高齢化に伴い困難になってきている現実があり、成年後見人制度の活用を進めている。
 ・聞き取りカードを活用し利用者の意見を聞いている、スタッフから上がってくる声をリーダーが受け止めフロア会議で共有している。

施設の対応等：
 ・面会日や家族の来園の際、生活状況等について伝えている。しかし、家族の高齢化に伴い来園回数も減少しているため、電話連絡や書簡で利用者の状況等を知らせている。
 ・今後、機会を捉えて家族の意向を把握し、家族支援に向けた取り組みを継続していきたい。また、親亡き後の問題等、将来を見据えた支援においても成年後見人制度の活用を図っていきたい。

A-5 県独自項目

A-5-(2) IT技術や知識の修得

A-5-^{A②}_{-①}(2) 利用者の社会生活に必要となるIT技術（パソコン、インターネット、メールの利用等）や知識の修得に向けた支援をしている。

着眼点

- 社会生活に必要となるIT技術や知識の修得のための情報発信をしている。
- IT技術や知識修得のための研修会に参加できる仕組みがある。
- 必要に応じて職員が相談に応じている。

委員からの意見：

- ・若い入居者が増えてきているため、職員が率先して指導している。
- ・研修会に参加したいが遠方の開催が多く参加できていないため、新しい知識が習得できていないができる限り、職員間で対応している。

施設の対応等：

- ・利用者の質問等については、パソコンに詳しい職員が相談にのっている。また、携帯やタブレットを利用して家族との連絡やゲーム等して楽しんでいる利用者もいる。
- ・今後、5G通信を活用出来る様になれば、それに応じた支援が行えるよう研修会に参加し、知識の充実を図りたい。